

2023年度 長崎大学大学院多文化社会学研究科 入試概要

出願前に必ず希望する指導教員と事前に連絡を取り、受験や研究内容・指導言語について十分相談しておく必要があります。

指導教員の連絡先がわからない場合は、10ページのQRコードからご確認ください。

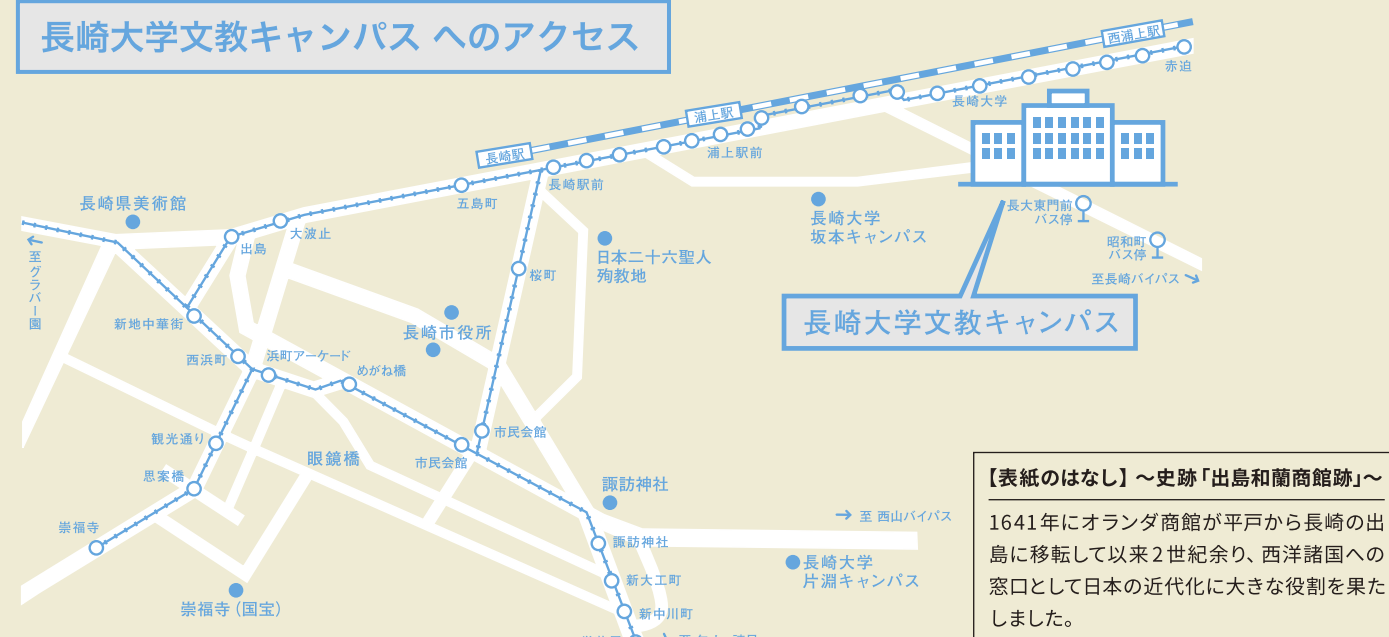
■ 博士前期課程 (入試区分: 一般入試、外国人留学生入試)

専攻名称	入学定員	学位名称
多文化社会学専攻 Department of Global Humanities and Social Sciences	10名 ※全ての入試区分を含む ※7月期募集で6名程度、2月期募集で4名程度を選抜予定。	修士(学術) Master of Arts
出願期間	2022年7月期募集 2022年5月23日(月)～5月27日(金) 17:00	2023年2月期募集 2022年11月28日(月)～12月2日(金) 17:00
試験日	2022年7月23日(土)	2023年2月14日(火)
選抜方法	口述試験: 専門科目(人文社会科学系)	
	口述試験: 外国語(英語) ※外国人留学生の場合は「日本語」	口述試験: 外国語(英語) ※外国人留学生 A選抜(英語を母語とする者)の場合は「日本語」 B選抜(英語を母語としない者)の場合は「英語」
	口述試験: 面接 ※研究計画書等に基づく試験	口述試験: 面接 ※研究計画書及び卒業論文等に基づく試験

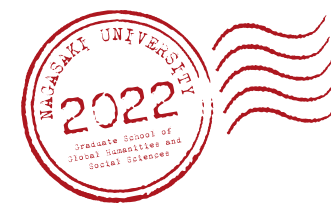
■ 博士後期課程 (入試区分: 一般入試、社会人入試、外国人留学生入試、進学者選考)

専攻名称	入学定員	学位名称
多文化社会学専攻 Department of Global Humanities and Social Sciences	3名 ※全ての入試区分を含む	博士(学術) Doctor of Philosophy
出願期間	2023年1月期募集 2022年11月28日(月)～12月2日(金) 17:00	
試験日	2023年1月28日(土)	
選抜方法	口述試験: 出願書類の内容審査を行う口述試験	

長崎大学文教キャンパス へのアクセス



長崎大学大学院 多文化社会学研究科



NAGASAKI UNIVERSITY 2022

Graduate School of Global Humanities and Social Sciences



研究科長 滝澤 克彦

いま我々が生きているのは、どのような世界なのでしょう。そして、その世界はどこへ向かっているのでしょうか。

今日の世界は、あらゆる領域で加速度的にグローバル化が進み、越境的な結びつきをますます強めています。そのつながりは極めて複雑に絡み合っているため、ある地域で生じた問題が、地球上のはるか離れた場所で、予測もつかない深刻な事態をひき起こすことも珍しくありません。そこには、差別や紛争、貧困や病気といった古典的な問題だけでなく、原子力や情報技術、人工知能や生命科学といった新たな知識や技術の導入にともなう課題も含まれます。

これらの問題は技術によって克服されるべき部分もありますが、一方で人間的・社会的な要因が深く関わっており、問題を回避、解決しようとする人間の努力や行動自体が、予測もできない新たなリスクを生み出すことすら少なくありません。このような複雑な連関を理解するためには、生きることの価値や意味といった根源的な問いを改めて見つめ直す必要があるのです。

本研究科の掲げる「多文化社会学」は、このような課題に取り組む新たな人文社会科学の確立へ向けて、異なる専門領域を横断的につなぎ、現代社会を超域的かつ俯瞰的な観点からとらえる知のあり方を模索します。

そのためには、自らの専門的立場を自明のものとするのではなく、自らの知と世界の関係を相対化し、異なる分野との境界を往還しながら世界に対する理解を深めていく学びが求められます。

博士前期課程の「学問のエレメンツ」と「学問のプラクティス」という枠組みは、その一つの試みです。2020年3月にその第一期生が修了し、同年4月からは博士後期課程がスタートしました。これから学際的、国際的ネットワークを積極的に活用しながら、さらなる飛躍へと挑んでいかなければなりません。この予測もつかない、可能性に開かれた未知なる世界へ、新たな一歩をともに踏み出してみませんか。

教育理念・目標

長崎大学は、「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」という理念を掲げ、これを実現するために「現場に強い、危機に強い、行動力のある」人材を育成し、21世紀の知的基盤社会をリードすることを目指しています。そのための重要教育目標の一つは、グローバル化時代の国際的な現場でリーダーシップを発揮することのできる人材を育成することです。

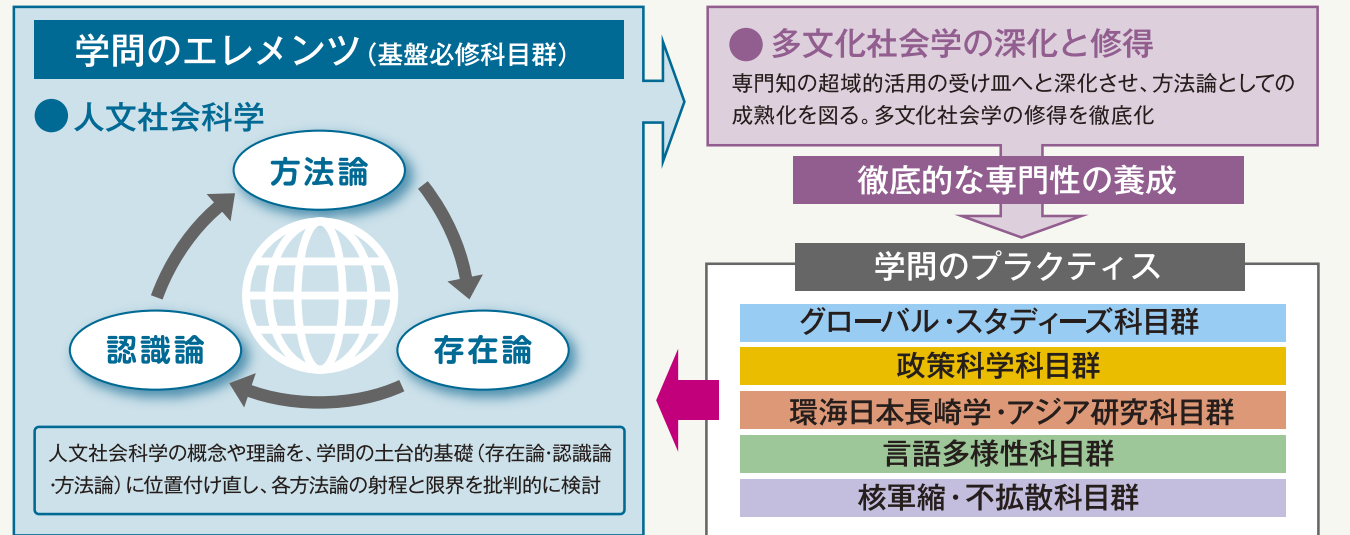
博士前期課程では、21世紀の多文化社会的状況において、文化的他者への理解や共感を第一義に据えて多様な文化や社会、理念や利害を洞察し、自らが有する確かな専門知とともに異なる専門知をも横断的に繋ぎつつ、「多文化社会学」の超域的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる人材を養成します。

また、博士後期課程では、21世紀の多文化社会的状況がもたらす諸問題について、「多文化社会学」に関する高度に専門的な知識に基づき、「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」を目指し、21世紀の学問に求められる価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人を養成します。

【博士前期課程】

■ 教員・学生がともに創る新たな学問としての「多文化社会学」

人文社会科学の学問分野は、社会学、言語学・言語教育、歴史学、考古学、政治学、経済学、法学、核軍縮・核不拡散、文化人類学、文学・表象文化、思想・宗教など多岐にわたります。本研究科では、これらの人文社会科学の概念や理論を学問の土台的基礎—存在論・認識論・方法論—に位置付け直し、各方法論の概念と理論の射程と限界を批判的に検討するとともに、専門知の超域的活用の受け皿へと深化させた、新たな学問としての「**多文化社会学**」を、教員と学生がともに創り上げます。この「**多文化社会学**」の学びを通して、人文社会科学系が本来的に持つ「**批判力**」（現状への批判的反省力）、「**構想力**」（現状打破に向けた展望を提示できる力）、「**実践力**」（領域横断的に知と人を繋ぎ、文化的他者との共生に基づき理念と利害を調整し、計画を実行する力）を修得します。



■ 領域横断型の「多文化社会学セミナーⅠ・Ⅱ」

主選択科目群や指導教員が異なる学生が、科目群横断型の「**多文化社会学セミナーⅠ・Ⅱ**」（必修科目）を共修します。セミナーでは、学問のエレメンツ：多文化社会学（人文・社会）で学んだ専門知、技法、領域横断的枠組みの土台の上で、多文化社会的状況における諸問題の実践的解決法の習得に向けて、ケーススタディ、ディスカッション、レクチャーや研究計画の発表及びブラッシュアップ等を領域横断的に実施します。指導教員以外の教員からも研究指導を受けることができるため、学問的基礎をより確かなものとすることができます。

■ 多様な学外機関（博物館・大学など）との連携

本研究科では、積極的に学外機関と連携し、学生の学びの深化を図っています。

国立歴史民俗博物館との連携 —「総合資料学」の実践—



大学・博物館などが持つ資料を多様なかたちで分析・研究する「総合資料学」を、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館にて、9月上旬に4日間の集中講義として開講します。

博物館のありかたや、展示方法およびその背景にある研究成果について総合展示や膨大な収蔵資料・データベースを通して学んだ上で、

各自対象とする「もの」資料あるいは事象を選び、専門家の助言を基に総合的に分析し、実際に展示構成のプレゼンテーションを行います。

資料単体では得ることのできない情報をさまざまな視点からアプローチして引き出し、研究的資源として幅広く活用し表現する能力は、歴史学の分野に限らず、人文情報学の知識とスキルとして欠かせないものです。

国際基督教大学（ICU）との連携 —国際・平和研究分野の共修と実践—

2019年3月8日、長崎大学と学校法人国際基督教大学（ICU）との間で「国立大学法人長崎大学と学校法人国際基督教大学との包括的連携協力に関する協定」を締結したことに併せて、本研究科とICU大学院アーツ・サイエンス研究科において、「単位互換及び特別研究学生交流に関する覚書」を締結しました。

これにより、双方の大学院生が両研究科の国際・平和研究分野を中心とした授業科目を受講（共修）し、単位を取得することができます（授業はオンラインや集中講義形式で実施）。

■ 標準履修モデル(修了要件:30単位)

1年次				2年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
学問のエレメンツ 多文化社会学 (人文・社会) (2)	学問のプラクティス科目 (科目群・選択科目) (16)						
	多文化社会学セミナーⅠ (2)		多文化社会学セミナーⅡ (2)				
研究指導 (8)							
指導体制の決定 主選択科目群の決定		「多文化社会学セミナーⅠ」を通じた研究 計画 (案) 作成・発表及びブラッシュアップ 研究内容に応じて 倫理審査 指導教員による研究指導		「多文化社会学セミナーⅡ」を通じた研究 経過の発表及びブラッシュアップ		中間発表会	学位論文の提出 修士論文成果発表会 論文審査及び最終試験

※()内の数字は修得すべき単位数

Pick Up!

【教員との共同研究プロジェクトの実施】

「長崎における外国人技能実習生の就労に関する社会学研究」
(令和元年度／令和2年度部局長裁量経費教育実践支援事業) (代表：奏漢卓娜准教授)

本研究プロジェクトでは、フィールドワークの手法を用いて長崎県及び九州圏内の外国人技能実習生の就労に関する調査を実施しました。具体的には、外国人技能実習制度における事前研修の課題や外国人技能実習生の生活実態を明らかにするための研究を遂行しました。一連の研究調査を通じて、生活者としての外国人や移民とともに築き上げる多文化社会の課題と展望を考察することを目指しました。

外国人技能実習制度をめぐる課題という特定のテーマを通じて、大学院生に対して方法論の研鑽を積む機会を与えることで、学術研究と社会実践双方へのフィードバックを進めるための作法を修得させることが可能になりました。

共同研究プロジェクトに参加した大学院生より(2020年度修了生)
【政策科学科目群】2年 堀江 直美 HORIE Naomi 2022年度多文化社会学研究科研究生

2年間にわたるプロジェクトを通じて、長崎県内において急増する20代を中心とする技能実習生たちの事例から、彼らの生活世界を捉えることができました。日本の少子高齢化などによる労働者不足により、技能実習生の就労現場は、以前のように農業・漁業・畜産業などの第一次産業や製造業、建設業、縫製業だけではなく、私たちの日々の生活を支える身近なスーパーマーケットのバックヤードの惣菜部門や製パン業など、多様な分野にわたっています。今回の調査からは、若い世代の外国人労働者たちによって我々の暮らしが成り立っている実態が明らかになりましたが、彼らを取り巻く労働環境は、低賃金や長時間労働、人権侵害など改善する余地の多い状況も浮き彫りになりました。しかし、このような状況も支援団体や地域の人々との関係性において改善されることが明らかになりました。

本プロジェクトを通じた研究活動を遂行するなかで、技能実習生ら外国人労働者と「我々」の関係を再考する機会を得たことは、日本の地域社会における多文化共生の課題をより深く考究することにつながりました。 ※新型コロナウイルス感染症の影響で、2021年度の共同研究プロジェクトは実施できていません。



ベトナム語ミサの後の記念撮影



研修中の技能実習生たち

Student's Voice



2年 賈 文夢
JIA WENMENG
【環海日本長崎学・アジア研究科目群】

考古学的な視点のみならず、多角的に社会問題を研究したい

私は、長崎大学多文化社会学部で2年間、研究生として過ごし、本研究科に進学しました。今は野上建紀教授の研究室で考古資料を元に、江戸時代に天然痘を患い亡くなった人々の墓、いわゆる「疱瘡墓」の研究を進めています。地球で生活する我々人間は常にいろんなウイルスとともにありました。江戸時代の天然痘は強い感染症として恐れられ、大村藩などでは感染した人は厳しく隔離され、死後も人里離れた場所に埋葬されました。その「疱瘡墓」から当時の差別と隔離を考えたいと思います。現代の新型コロナ感染症をみてもわかるように、感染症はひとつの国や地域の問題だけではなく、世界中が直面する問題です。感染症との闘いの遺産とも言える「疱瘡墓」からみる感染症対策は、現在の新型コロナ感染拡大への対応など現代的な課題とも重なります。

私の専門は考古学ですが、多文化社会学研究科では歴史学、文化人類学、社会学など様々な専門科目を学べます。この環境を生かしながら考古学的研究から学際的研究に展開させたいと思います。

【博士後期課程】

■ 各研究領域における更なる専門化と体系化

博士後期課程では、各研究領域における更なる専門家と体系化を図るため、博士前期課程において設定している5つの科目群を基盤としつつも、その専門性をなお一層深化させた5つの研究領域(系)を編成しています。博士後期課程を担当する教員はいずれかの系に属しており、学生は指導教員が属する研究領域(系)に基づいて研究課題にアプローチし、研究指導チームの指導の下、21世紀の「多文化社会的状況」におけるより一層高度な「問題本質を見極める力」又は「問題解決に向けた多様な解を提示する力」を養うなかで、持続可能な社会の構築に資する質の高い研究計画を立案し、それに基づき研究を実施します。

<博士前期課程における科目群>

グローバルスタディーズ科目群
政策科学科目群
環海日本長崎学・アジア研究科目群
言語多様性科目群
核軍縮・核不拡散科目群

<博士後期課程における研究領域(系)>

社会文化研究系
公共政策研究系
環海日本長崎学・アジア研究系
言語研究系
核兵器廃絶・平和学系

■ 標準履修モデル(修了要件:16単位)

1年次				2年次				3年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
多文化社会学特論Ⅰ (2)	多文化社会学特論Ⅱ (2)										
研究演習Ⅰ (4)				研究演習Ⅱ (4)				研究指導 (4)			
研究指導体制の決定			中間発表会 研究成果 報告書Ⅰの 作成				中間発表会 報告書Ⅱの 作成			予備審査 論文の提出 予備審査	学位論文の 提出 論文審査及び 最終試験
	「研究演習Ⅰ」を通じた研究計画(案) 作成・発表及びブラッシュアップ 研究内容に応じて倫理審査			「研究演習Ⅱ」を通じた研究経過の 発表及びブラッシュアップ				指導教員による研究指導		博士論文 成果発表会	

※()内の数字は修得すべき単位数

■ 養成する人材像

21世紀の「多文化社会的状況」がもたらす諸問題について、多文化社会学に関する高度に専門的な知識に基づき、「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」を目指し、21世紀の学問に求められる価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人

■ 授与する学位

博士(学術)(Doctor of Philosophy)

■ 想定される就職先

研究者(留学生の母国の大学や研究機関を含む。)、グローバルに展開する企業、国際機関、社会人の学び直しなど

■ 多文化社会学にふさわしい学際性の担保

研究指導は、主指導教員とは異なる研究領域(系)の副指導教員1名を含む3名の研究指導チームにより行います。必要に応じて学生の研究テーマを考慮して学外の連携機関から学外アドバイザーを選出します。

(学外アドバイザーを選出する主な国内外研究機関)

ライデン大学、国際基督教大学、東洋文庫、国立歴史民俗博物館等



東洋文庫 モリソン書庫

■学位論文審査基準（博士前期・後期課程）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、学位論文の審査基準を次のとおり定める。

1. 審査体制

学位論文の審査及び最終試験は、主査1名、副査2名以上の計3名以上からなる学位審査委員の合議により行う。

2. 審査方法・評価及び審査項目

学位審査委員は、以下の審査項目を基に論文審査及び最終試験を行い、AA（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、不可（59点以下）で評価する。

なお、論文審査及び最終試験は、論文審査出願者ごとに発表及び口頭試問により行う。

【審査項目】（1）～（4）：前期・後期課程共通 （5）：後期課程のみ

（1）研究目的・テーマ・課題設定の明確性及び適切性

研究目的・テーマ・課題設定が明確、かつ適切になされていること。

（2）先行研究・資料の取り扱いの適切性

先行研究の十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。

（3）研究方法・分析手法の適切性

研究方法・分析手法が、データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行なわれていること。また、先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
※研究計画の立案及び遂行、研究成果の発表、データ等の保管に関して、必要な倫理的配慮がなされていること。

（4）論旨の明確性・構成の適切性

論旨が一貫しており、設定した課題に対応した明確かつ論理的な結論が提示されていること。また、文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等などの体裁が整っていること。

（5）上記の基準に加えて、当該学問分野における研究を発展させるに足る学術的意義・価値が見いだせること。また、その点に基づいて、論文審査出願者が近い将来、自立した研究者として活躍していく確かな研究能力及び豊かな学識が認められること。

■ 修士論文タイトル（修了生の一例）

グローバル・スタディーズ科目群

Literary Representations of Japan in the Works of Haruki Murakami and David Mitchell
マッピングで考える長崎を舞台にした日本の小説について



政策科学科目群

移り変わるベトナム系コミュニティ—長崎のカトリック教会に集う若者たちの生活世界の視点から—
族際婚姻したモンゴル族母親の教育戦略—民族教育を受けた母親の語りを手がかりとして—

環海日本長崎学・アジア研究科目群

在日華人子女に対する中華文化の教育と伝承に関する研究 —長崎における華人子女を対象に—
中国におけるキア主義の展開についての理論的考察—社会構造、権力とセクシュアリティを中心に—

言語多様性科目群

Examining the Impact of Watching English Videos with Bilingual Subtitles on Japanese University Students' L2 English Vocabulary
中学校期における英語発信能力の育成 —英作文表現の効率化に向け、語彙がもつ「コア・イメージ」を活かした語彙指導・文法指導の実践—

核軍縮・不拡散科目群

韓国人被爆者：「語り」から見る社会的被害の特徴分析
北東アジアにおける非核化と日本の安全保障—日米同盟の視点からみた「朝鮮半島の非核化」と「北東アジア非核兵器地帯」の比較考察—

【卓越大学院プログラム】

アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム
Applied Humanities Program for Cultivating Global Leaders



■ プログラム概要

本プログラムは、人文科学の発想を基礎に据えながら、進化したDigital Humanitiesの方法を融合し、人間社会における未知の事態に対して指針を示し得る、刷新された人文的学知 Humanities Innovationに基づく大学院教育プログラムを「臨床人文学」という概念で位置づけ、アジアユーラシアを主とした国内外の多様な機関との横断的連携ネットワークによる「臨床人文学」の学びをとおして、現代社会の課題に対して、しなやかな文化的想像力と文理融合的な俯瞰的学知に基づいて多様な存在と協働し、ダイバーシティ社会を主導していくトップマネジメント人材を養成する、5年一貫の博士課程学位プログラムです。

【連携先機関】 千葉大学（◎主幹校）、岡山大学、熊本大学、総合研究大学院大学、国立歴史民俗博物館、浙江工商大学東方語言文化学院（中国）、ロシア人文学大学東洋古典学研究所（ロシア）、イオン株式会社、公益財団法人イオン環境財団、株式会社 JTB 総合研究所、千葉銀行	
---	--

■ プログラムの特徴

- ◎本プログラムは、文部科学省「卓越大学院プログラム」事業が支援する学位プログラムです。
- ◎アジアユーラシア研究と Digital Humanities 2.0 を2本柱とした5年一貫型のカリキュラムを学びます。講義・演習科目の他、アジアユーラシアでのフィールド・リサーチやプログラム学生を一同に会した合同コロキウムを開催します。
- ◎連携5大学による機関横断型指導教員チームで指導します（主指導：在籍大学教員、副指導：連携大学教員）。
- ◎研究科の修了要件単位数に加えて、プログラム修了に必要な単位を修得します（博士前期：12単位、博士後期：8単位）。
- ◎修了者の学位記に、プログラムを修了したことを付記します。
- ◎原則、プログラム学生にRA経費等の経済支援を行います。 ※本学の財政状況により変更の可能性有

■ 標準履修モデル（博士前期課程）

プログラム履修生は本研究科の授業科目に加えて、以下のとおりプログラムに必要な授業科目（単位）を修得します。

1年次				2年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
	アジアユーラシア研究法 (1)						
	Digital Humanities 2.0 研究法 (1)	その他、選択必修科目 (6) (本研究科又は連携大学が提供する授業科目から履修)					
	総合研究演習Ⅰ (2)			総合研究演習Ⅱ (2)			
学生の募集・決定 指導体制の決定	合同コロキウム				合同コロキウム		リサーチペーパー (修士論文) の提出 ゲート審査
	フィールドリサーチ (国外1か所以上を含む2か所以上) 「総合研究演習Ⅰ・Ⅱ」を通じた研究計画 (案) 作成・発表及びブラッシュアップ						

※（ ）内の数字は修得すべき単位数

Student's Voice



2年 宮本 百合子
MIYAMOTO Yuriko

【グローバル・スタディーズ科目群】

多様な社会を理解するための、有意義な学びの場

私は、現代モンゴル社会におけるLGBTの人々を対象として、なかなか可視化されることのないその様態を明らかにし、歴史・文化・宗教的背景に基づき分析を行うため調査を行なっています。モンゴルは伝統的な遊牧文化や、社会主義時代の経験とグローバル化、チベット仏教やシャマニズムの信仰など、多様な背景をもつ国です。そのような現代モンゴル社会のLGBTの人々のライフヒストリーから課題を読み解き、解決に貢献したいと考えています。
卓越大学院プログラムでは、Digital Humanities 2.0 研究法というデータサイエンスによる研究技法と、人文的なアジアユーラシア研究法の講義を通して、多様化する現代社会を可視化し、ローカルな観点から研究を展開する手法を身につけることができます。また合同コロキウムは、様々な研究に触れることで自身の研究の幅を広げ、新たな視点を得ることができる貴重な機会となりました。本プログラムは、多様な文化的背景や社会のあり方を把握し、課題解決に導くための有意義な学びの場と言えると思います。

プログラム履修生の研究活動報告

研究環境・学生支援制度

研究科演習室等

大学院生の研究活動を支援するため、大学院生専用の研究科演習室のほか、スキャナを備えた Digital Humanities Lab、専門書や修士論文等を配架した多文化図書室を備えています。



講義・演習を行う研究科演習室

スキャナを備えた Digital humanities Lab

専門書を配架した多文化図書室

院生研究室等

院生研究室の建物には、個人用デスクのほか、ディスカッションができるフリースペース、複合機、WiFiなど、個人の研究やグループでの活動ができる快適な研究環境を整備しています。



院生研究室

フリースペース

院生専用の複合機

長期履修制度

標準修業年限での修学が困難な事情にある者については、標準修業年限に納付すべき授業料で標準修業年限の2倍までの履修期間を申し出て認定を受けることができます（博士前期課程：4年、博士後期課程：6年）。

【対象者】職業を有し、就業している者、家事・育児・介護等に従事している者、障がいのある者 など

教育職員免許状

高等学校教諭一種免許状（英語）を有する者は、本研究科博士前期課程において所定の単位を修得すれば、高等学校教諭専修免許状（英語）を取得することができます。

就職・進学先の主な実績（社会人学生を含む）

【就職先】民間企業（英語教育関連等）、中学校英語科講師、日本の大学又は海外の高等学校における日本語教師・講師、地方公務員 など

【進学先】多文化社会学研究科博士後期課程進学、同博士前期課程研究生（進学希望者）



知識と経験を“深化”させてくれる教員と
学びとの出会い

各教員のプロフィールや研究テーマについて、詳しくは大学院のWEBサイトをご覧ください。

（M：博士前期課程担当、D：博士後期課程担当）
◎：主な研究テーマ



 M/D 木村 直樹 教授 ◎日本近世史 ◎交流史	 M/D 才津 祐美子 教授 ◎民俗学・文化人類学 ◎文化遺産研究	 M/D 齋漢卓娜 准教授 ◎家族社会学 ◎移民研究	 M/D 鈴木 章能 教授 ◎比較文学 ◎英米・英語圏文学	 M/D 鈴木 達治郎 教授 ◎原子力平和利用 ◎核軍縮・核不拡散	 M/D 滝澤 克彦 教授 ◎宗教学 ◎モンゴル研究
 M/D 西原 俊明 教授 ◎コーパス言語学 ◎応用言語学	 M/D 野上 建紀 教授 ◎水中考古学 ◎海上交易史	 M/D 葉柳 和則 教授 ◎文化表象論 ◎文化社会学	 D 針貝 綾 教授 ◎西洋美術史	 M/D 森川 裕二 教授 ◎国際政治学 ◎東アジア国際関係	 D 前田 桂子 教授 ◎日本語学・方言史
 M/D 楊 晓安 教授 ◎実験音声学 ◎統語論	 M/D 吉田 文彦 教授 ◎核軍縮・核不拡散 ◎軍備管理条約	 D 吉田 ゆり 教授 ◎発達臨床心理学・ 発達支援と施策研究	 M/D 王 維 教授 ◎移民/マイノリティ研究	 M 小島 卓也 准教授 ◎日本語教育学◎応用言語学 ◎外国語教授法	 M 岩本 佳子 准教授 ◎歴史学 ◎オスマン朝史研究
 D 大平 晃久 准教授 ◎文化・社会地理学	 M/D カトロニ ピノ 准教授 ◎アジア法（人権/ジェンダー/平和） ◎応用言語学 ◎語用論	 M 河村 有教 准教授 ◎アジア法（人権/ジェンダー/平和） ◎刑事法学	 M/D ギェルベヤズアブドゥラッハマン 准教授 ◎記号論 ◎文化理論	 D 吉良 史明 准教授 ◎日本近世文学 ◎日本思想史	 M/D 小松 悟 准教授 ◎開発経済学 ◎環境経済学
 M/D コンペル ラドミール 准教授 ◎比較政治学 ◎日本政治史	 M 白井 章詞 准教授 ◎キャリア教育	 M/D 谷川 晋一 准教授 ◎生成統語論 ◎理論言語論	 D 中島 ゆり 准教授 ◎教育社会学	 D 畑中 大路 准教授 ◎教育経営学 ◎教育行政学	 M/D 原田 走一郎 准教授 ◎方言学 ◎記述言語学
 M/D 細田 尚美 准教授 ◎文化人類学 ◎移民研究	 M/D 南 誠 准教授 ◎歴史社会学 ◎国際社会学	 M/D 森 元斎 准教授 ◎哲学 ◎現代思想	 M 西川 美香子 准教授 ◎応用言語学（言語テスト） ◎英語教育	 M 佐藤 靖明 准教授 ◎民族生物学 ◎アフリカ地域研究	 M 姉川 雄大 准教授 ◎歴史学 ◎ヨーロッパ近現代史